

## 学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	中植正剛
2. 審査委員	主査：(兵庫教育大学・教授)森山 潤 副主査：(兵庫教育大学・教授)小山英樹 委員：(兵庫教育大学・教授)永田智子 委員：(兵庫教育大学・教授)森廣浩一郎 委員：(鳴門教育大学・准教授)阪東哲也
3. 論文題目	国際的なデジタル・メディア活用コンピテンシーの枠組みに基づく高等学校における情報活用能力育成のあり方に関する実証的研究
4. 審査結果の要旨	<p>論文提出による学位申請者 中植正剛 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>論文審査日時：令和6年7月27日（土） 14時30分～15時00分</p> <p>場 所：オンライン</p> <p>1. 学位論文の構成と概要</p> <p>(1) 論文の構成</p> <p>第1章 緒論</p> <p>第1部 欧州委員会のDigCompに関する検討</p> <p>第2章 欧州委員会のDigCompに見られるコンピテンシー概念の整理</p> <p>第3章 欧州委員会のDigCompとの比較に見る情報活用能力の特徴</p> <p>第4章 欧州委員会のDigCompに準拠した高校生版デジタルコンピテンシー自己評価尺度の開発</p> <p>第2部 ユネスコのメディア情報リテラシーに関する検討</p> <p>第5章 ユネスコのメディア情報リテラシーに見られるコンピテンシー概念の整理</p> <p>第6章 ユネスコのメディア情報リテラシーとの比較に見る情報活用能力の特徴</p> <p>第7章 ユネスコのメディア情報リテラシーに準拠した高校生版メディア情報リテラシー自己評価尺度の開発</p> <p>第3部 高校生のデジタル・メディア活用コンピテンシーを育成する学習指導の検討</p> <p>第8章 高校生のメディア情報リテラシーとデジタルコンピテンシーの能力感構造の検討</p> <p>第9章 デジタル・メディア活用コンピテンシーの自己調整学習力と学習継続価値の形成を支援する学習指導の展開</p> <p>第10章 結論及び今後の課題</p>

## (2) 論文の概要

本研究の目的は、国際的な枠組みによって提案されているデジタル技術や情報メディアの活用能力に関するコンピテンシー（以下、デジタル・メディア活用コンピテンシー）の概念を用いて我が国の情報活用能力の概念や要素を捉え直し、生涯学習の観点から、その育成のあり方について高等学校を中心に検討することである。本論文は、緒論と結論を含め、計3部からなる全10章で構成される。具体的には、海外のデジタル・メディア活用コンピテンシーの枠組みとして欧州委員会のDigCompとユネスコのメディア情報リテラシー（以下MIL）を取り上げ、コンピテンシーの観点からそれらの概念と要素の整理を行っている（第2, 5章）。また、DigCompとMILの枠組みを用いて我が国の情報活用能力の特徴や強み・弱み、過不足についての検討を行っている（第3, 6章）。その上で、デジタル・メディア活用コンピテンシーの自己調整学習のための自己評価ツールとして DigCompとMILに準じた自己評価尺度の開発を行っている（第4, 7章）。また、開発した尺度を用いて高校生の能力感構造を把握した上で、自己調整学習を取り入れた実践授業を行い、その学習効果を検証している（第8, 9章）。第10章では、各章で得られた知見に基づき、今後、育成が求められる新しい情報活用能力の在り方について考察している。

## 2. 審査経過

我が国では、文部科学省が定義する情報活用能力の考え方に基づいて体系的な情報教育が展開されている。しかし、情報活用能力は、1990年に提唱されて以降、1997年に3観点に整理された後、現在まで大きな改訂は行われていない。近年の情報通信技術の著しい発展や社会の変化を踏まえると、今後、育成が求められる情報活用能力の在り方については、再検討が求められる。この問題に対して本研究は、欧州委員会のDigCompとユネスコのメディア情報リテラシー（MIL）などの国際的なデジタル・メディア活用コンピテンシーの枠組みを用いて、我が国の情報活用能力の特徴と課題を明らかにした上で、生涯学習の観点から高校生を対象とした授業モデルを構築し、試行的実践を行っている。その結果、①DigCompとの比較では、情報技術の活用を伴ったデジタルコンピテンシーの段階的な育成が十分取り上げられていないこと、②MILとの比較では、情報に対する批判的思考など、メディア・リテラシーに関連する要素が十分取り上げられていないことに、情報活用能力の課題があることを明らかにしている。このように情報活用能力を国際的な枠組みと比較し課題を明らかにしている点には独創性が認められる。本研究ではさらに、DigCompとMILの枠組みに基づき高校生が自己評価できる測定尺度を構成するとともに、高校生のデジタル・メディア活用コンピテンシーの能力感構造を明らかにしている。その上で、見出した能力感構造に即して自己調整学習のサイクルを骨格とする3つの学習コースを設定し、試行的実践を行っている。その結果、本実践は、デジタル・メディア活用コンピテンシーに係る高校生の学習方略の獲得に有効であったことを明らかにしている。このように、デジタル・メディア活用コンピテンシーの自己評価尺度の構成には今後の実践研究に向けた発展性が、高校生の能力感構造に基づく学習コースのデザインには実践性が、それぞれ認められる。

## 3. 審査結果

以上により、本審査委員会は 中植正剛 の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。